

府中市健康地域づくり審議会  
第16回次世代創造分科会 報告書

- 1 日時：平成29年2月3日（金）13：30～15：00
- 2 場所：府中市役所2階 第一応接室
- 3 出席者：谷 秀 樹（分科会会長） 板 橋 千代美（分科会副会長）  
山 路 ヒロコ（分科会委員） 吉 原 純（分科会委員）  
水主川 緑（分科会委員） 宗 藤 正 典（分科会委員）  
藤 井 敬 子（分科会委員）

4 概要

- (1) 開 会
- (2) 分科会長あいさつ
- (3) 報 告  
①報告1 「府中市保育環境創造計画」（素案）について
- (4) 議 事  
①議事1 審議会報告について  
㊦H28年度施策の実績・成果まとめ  
①H29年度分科会施策の管理シート  
②議事2 今後の柱となる施策について

【報告1】

質問等なし。

【議事1㊦】

事務局案に対して意見なしのため、事務局案で審議会へ提出する。

【議事1①、議事2についての主な質疑・意見】

委員：子どもの虐待というところで、府中でも子どもが亡くなったり、子どもに虐待をしてしまう家庭があるのか。把握しているか。

事務局：死亡事例はないが、先ほど5割弱と言ったのは、全国の数字で見ると0歳児の死亡が45%程度あり、府中市の状況で言うと、毎年50件程度の通告がある。それに対して県の東部こども家庭センター、学校、民生委員等と連携して、ケース会議をしながらご家庭へお話をさせていただいているという状況がある。特段府中市が多いとか少ないとかではない。乳幼児に限らず、小学生や中学生のお子さんの場合もある。

委員：通報等でわかるのか。

事務局：そのとおり。入ってくるケースとしては、学校から、地域の方からや警察からの場合もある。

委員：命の問題であるし、子どもはSOSを出せないし、他の問題とはちょっと違って、○とか×とかでははかれない感じがする。もっといい策が話し合いで出せたらいいと思う。

事務局：全体的には、いろんな関係団体と一緒に要保護児童に対するケアは他の事業でやっている。その中のひとつの事業として、虐待につながらないように幼児期から小さいときから特定妊婦という妊婦のときからも含めてケアをしていこうという取組で、将来虐待につながりそうなものを予防していくというのを目的で行っている。一般的にいう虐待に対しては、ケース会議や関係機関との連携は取っているところである。

委員：府中市は家庭訪問もしてくれ、健診でリフレに行ったときには、親しくしてくれる私たちのお母さんのような感じの人もいてくれる。0歳で死亡例が多いということは、0歳が一番しんどいからだと思う。でもそこで府中市はなんとなく頼れるところがあるというのは、良い結果につながっていると思った。未然に防ぐというようなことが、できているからだと思う。

委員：来年は「婚活」という名前をやめたほうがいいのではないかと。「婚活」となっていると誰も来たくないと思う。気がついたら婚活になっていたようなもっと素敵な形にしていけないともったいないと思う。何かひとつに的を絞ってと言われたが、特に強く思うが、「子育てにやさしい街府中」というのを根本にして、他の世代に子どもをつなげていくのはどうか。婚活パーティーも、名目は「子どものため」として、何か子どものためにみんなでやっているよということから発信すれば、まとまりもあるし、気づけば婚活になっていたみたいな、そういうわくわくするような感じが欲しい。虐待も、いろんな専門分野がちゃんと見て、報告し合って、困っている人がいないかというのをみんなで見ている。困っている人を支援するというのが府中市は結構できている。目標を子育てとすると明るい気がする。

委員：そういう体制が整っているということは知らなかったが、お母さんたち同士でもつながりがあれば、ちょっと話をするだけで、爆発せずに済むと思う。子どもや夫に当たったりというのが回避されると思う。お母さんたち同士でサークルがあって、その横のつながりで解消しながら、本当にしんどいときにちゃんと専門機関もバックアップとしてあるというのがあったら、すごくいいなと思った。その横のつながりがみんなすごく欲しいのに作りづらいのかなと思ったりする。

委員：今どういう旗を掲げるか、まさに子どものためみたいなのを掲げて、全ての事業がその目的のためにある。目的にストーリー性があって今個々で動いている

事業の破壊力が増すというか、密度が濃くなると思う。ウッドスタート事業でバッグ、積み木を作ったが、このバッグをみんなで刷ろうと、道の駅でワークショップ形式で行った。バッグ自体は、オムツを入れたり、おしりふきを入れたり、実用的に使ってもらえるというものにした。来場者の人にも「これ、どこかの赤ちゃんの手に渡りますからね」ということをちゃんと伝えていくと、「わぁ」とやってくれる。そこでストーリーが生まれて、目的が子どものためというすごく明確で、賛同しやすくなる。掲げるだけでやっていることにストーリー性が生まれてつながっていく。大きな目的のために旗を掲げることと、あとはやはり周知でしょうね。いいことやっているのに知らないっていうのはもったいなくて、ほかでもやっているということですが、他以上にやっているようにちゃんと周知できれば、それはさっきグラフでもあったように転入転出のバランスというところで、府中は子育てにやさしいなとか、何かしら動機につながって、転入につながっていくような気がする。

委員：知り合いの社長さんが、「女の人には育児と家事で大変と言われるけれど、お母さんたち仕事は早く終わってるのに、駐車場で長話しているよ」と言われたことがあるが、あれが大切。あれをしないとお母さんたちは爆発してしまう。旦那さんは帰ってきたらご飯を食べてお風呂入って寝ればいいんだから。やっぱり時間を早く切り上げて帰って行く方たちは忙しい。女のストレス解消法とか、子どものためにこの無駄話が必要だということを面白おかしくでもいいから、心理学とか女性の脳の働きとかそういうのを男性に学んでもらったら、イクボスにつながるかなと思う。お互い理解し合って。

委員：マリトレという題名になっているが、あの事業は素晴らしいと思っている。一人ずつを育てていく、一人ずつを育てるためにマリトレではなくて、ある言葉を考えてきた。“学ぼう、出会おう、つながろう”そういうところで一緒に勉強して、自分を高めていって、府中市が良くなっていって。みんな心が安定してきて自分を好きになるような講座をいっぱい作って、もっと増やされたらいい。そこをしっかり作っていって、ここの分科会だけじゃない、いきいきの方へもそれをつなげていって結婚している人もそういう勉強したらいいのではないかな。それで、子どもたちがその親の姿を見て、安定して育てていくという府中市にされたらいいなとずっと思っている。

委員：いきいきの分科会は結婚した何歳以上とか、年をとったらプラチナレッスンとか、年齢を重ねた60代が学ぶ講座とか全部つなげていかないと4つがバラバラになっているような気がして、時間をかけて会議をするのに、結局何をしたんだろという感じがすごくしているので、人を育てる事業をされたらいいと感じる。

委員：それぞれの分科会で同じようなことを言われているんですね。長寿サポートで

は反対に子どもとのつながり、こっちではこうといろんなところでのつながりがあるというような、お子さんが集まったり、結婚されてない方同士が集まったり、一緒にやればつながりが出てくるという考えですね。マリトレといっぺと切り離すのではなくて、ということですね。

(5) 事務連絡

(6) 閉会 分科会副会長あいさつ